

帯広市立帯広第一中学校

取組の名称 生徒会主体のいじめ対策「プラス言葉マイナス言葉」の取組

11月17日(金)～

場所：帯広第一中学校生徒会室

校長名 堂山貴也

全校生徒数 454名



【言葉をまとめている様子】

取組の概要

生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会三役が中心となり、各学級の委員長と副委員長で構成されている代議員会において、普段使っているどんな言葉がプラス言葉とマイナス言葉なのかを考え、整理するとともに、プラス言葉とマイナス言葉を模造紙にまとめ、全校生徒の目に付く場所に掲示することにより共有した。

【生徒の感想】

最近、言葉によるいじめが増えてきている。全校生徒の目に入るところにプラス言葉とマイナス言葉を掲示し、互いに声かけをし合うことでいじめを減らしていきたい。

成 果

いじめ対策のプラス言葉の掲示を見て、「いじめは絶対にしない。いじめを見たら先生に相談したい」などの声上がるなど、生徒一人一人のいじめ根絶に対する意識を高めることができた。

帯広市立帯広第二中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ標語」の取組

1月24日(水)

場所：帯広市立帯広第二中学校各教室

校長名 高山亮司

全校生徒数 217名



【ファミリー・サミットの様子】

取組の概要

校区内小学校児童会とファミリー・サミットを開催し、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、各校のいじめ根絶に向けた取組を共有した。生徒会書記局が中心となり、小・中学校のいじめ根絶の取組について話し合い、議論を深め、生徒会書記局がファミリー・サミットの内容をまとめ、全校に周知するとともに、全校生徒が標語・ポスターを作成し、いじめを絶対に許さない態度の育成を図った。

【生徒の感想】

ふざけているつもりでも、言葉や行動が相手を傷つけることや嫌な気持ちにさせることもあることに気が付いた。相手を思いやる言葉や行動を大切にしたい。

成 果

ファミリー・サミットを通じて共通した「いじめ根絶」の取組をすることで、エリア内でのいじめ根絶の意識を高めることができた。小・中学校が連携した取組を進めることで、エリア内でいじめを絶対に許さない態度の育成を図ることができた。

帯広市立帯広第四中学校

取組の名称 生徒会主体の「自己紹介カード」の取組

12月19日(火)～1月26日(金)

場所：帯広市立帯広第四中学校

校長名 卯月道彦

全校生徒数 369名



【カードを見ている様子】

取組の概要

いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、「自己紹介カード」の作成を全校で取り組んだ。生徒同士が互いの理解を深め、認め合う態度を育成するとともに、交流を図るきっかけにすることができるよう、「今、ハマっていること」を題材に「自己紹介カード」を書き、多くの生徒の目に止まる生徒玄関前に掲示することで、生徒同士のカードを交流した。

【生徒の感想】

色々な人のことを知ることができたし、友だちへのメッセージから、日常のクラスメイトの動きに対して感謝の気持ちをもっていることが分かり、温かい気持ちになった。

成 果

学年を混ぜてカードを掲示する工夫をしたことで、多くの生徒が一つ一つの「自己紹介カード」をじっくりと見て、生徒同士の相互理解を深めることができ、互いを認め合い、いじめを絶対に許さない態度の育成につながった。

帯広市立帯広第五中学校

取組の名称 生徒会主体「いじめ」のない学校をつくる取組

12月11日(月)～12月22日(金)

場所：帯広市立帯広第五中学校

校長名 高橋 謙

全校生徒数 344名



【明るい雰囲気の実行部の様子】

取組の概要

生徒がいじめに対し主体的に考えることを通して、「いじめを絶対に許さない」態度の育成をねらいとして、生徒会執行部が中心となり、学級の仲間同士のよい所を見つけ合い、それらを記して掲示する「Best Favor 運動(よい所探し)」を実施した。また、「生徒会執行部と話そう」という企画を考え、全校生徒との架け橋を執行部が担うことで、いじめを絶対に許さない雰囲気づくりに取り組んだ。

【生徒の感想】

Best Favor 運動では、何気ない小さな一言が、人を傷つけたり、救ったりすることを改めて感じた。何よりも相手の意思を感じ取る感性が大切だと再認識した。

成 果

年間を通じて計画的に取り組むを行うことにより、毎日の学級活動等において、生徒の相手を思いやる気持ちや互いのよさを認め尊重する態度が生まれ、いじめを絶対に許さない雰囲気の醸成を図ることができた。

帯広市立帯広第七中学校

取組の名称 生徒会主体の「ファミリー・サミット」の取組

11月21日(火)6時間目

場所：帯広市立帯広第七中学校草笛教室

校長名 櫻井 知克士

全校生徒数 60名



【サミットの様子】

取組の概要

いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとし、帯広第七中学校を会場に、愛国小学校、大正小学校の児童生徒の代表者が集まり、いじめ非行防止ファミリー・サミットを開催した。生徒会事務局が中心となり、「いじめといじりの違いについて」や「いじめをなくすためには具体的にどうしたらよいか」について、議論を深め、協議の内容を全校生徒に周知した。

【生徒の感想】

いじめといじりの境目は難しいが「本人の気持ち」が大切だと思う。一人がいじると周りも同じことを言うってしまうので、言われる人の立場に立って考えていきたい。

成 果

「いじめの防止のため、生徒同士の仲を深めていくことが大切だと思うので、学級内や他学年とも交流することに力を入れる」との意見が出されるなど、議論を通して、生徒のいじめ根絶に対する意識を高めることができた。

帯広市立帯広第八中学校

取組の名称 生徒会主体の「さわやか集会」の取組

12月22日(金)5時間目

場所：帯広市立帯広第八中学校体育館

校長名 黒田 正 則

全校生徒数 426名



【挨拶運動推進CMの一コマ】

取組の概要

全校生徒にいじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、生徒会事務局が中心となり、挨拶運動推進CMを作成した。作成した挨拶運動推進CMは、全校が一堂に会して行った「さわやか集会」において上映するとともに、いじめを根絶するための行動についてクイズ形式で全体交流し、いじめの問題を自分事として考えるための意見交流を行った。

【生徒の感想】

挨拶は、人とのコミュニケーションの始まりであり、挨拶をされたら、単に挨拶を返すだけでなく、自分から積極的に声を掛けていくことが大切だと思った。

成 果

生徒会が主体となって作成したCMにより、全校生徒が挨拶を通じて交流を深めることの大切さに気付くとともに、意見交流により、生徒がいじめの問題について主体的に考えることができ、いじめ根絶に対する意識を高めることができた。

帯広市立南町中学校

取組の名称 生徒会主体の「あいさつ運動」の取組

2月1日(木)・8日(木)・15日(木)

場所：帯広市立南町中学校校門前・廊下等

校長名 能 戸 貴 英

全校生徒数 631名



【あいさつ運動の様子】

取組の概要

学校全体として挨拶の意識を高めること、朝元気に挨拶することで学校生活をより気持ちよく過ごすとともに、交流を通して生徒同士の交流を深めることをねらいとして、生徒会四役と各学級委員長・学級副委員長が中心となり、登校時の15分間、校門前、生徒玄関前廊下や生徒が使用する階段付近で「あいさつ運動」を実施した。生徒会通信や放送等で広く呼びかけ、自主的な参加を促した。

【生徒の感想】

運動員として協力してくださった皆さんがとても元気よく、気持ちよく活動することができた。また、今まで以上に挨拶を返してくれる人が多かった。

成 果

生徒会四役の反省では、「多くの方が積極的に運動員として協力くださり、『あいさつ運動』のねらいを達成することができた」などの振り返りがあり、生徒同士の交流を深め、いじめ根絶に向けた風土を醸成することができた。

帯広市立西陵中学校

取組の名称 生徒会主体の「安全宣言集会」の取組

7月3日(月)6時間目

場所：帯広市立西陵中学校体育館及び生徒玄関

校長名 嶋 健

全校生徒数 377名



【「安全宣言集会」の様子】

取組の概要

人を大切にする姿勢を学び、自分も大事にできる行動をとれるようになることをねらいとし、安全宣言集会において、生徒会長が全校生徒に向けて「全ての人を大切にし、思いやりの中で生きること」を宣言した。また、挨拶を交わし、互いの存在を認め、尊重していくために、ファミリー・サミットでスローガン「元気・感謝・笑顔」をつくり、エリアで共通の活動としていくことを確認した。

【生徒の感想】

安全宣言集会で改めて、人を大切にすることを意識した。どんな人に対しても思いやりをもって行動し、心も身体も傷つけることなく生活していきたい。

成 果

安全宣言集会の宣誓を具体化する取組として、人を大切にすることを意識し、挨拶運動を通して「互いに認め合う」活動を日常的に行ったことにより、自然に顔を上げて挨拶する生徒が増え、いじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

帯広市立緑園中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月22日(金)4時間目

場所：帯広市立緑園中学校体育館

校長名 大 泉 昭 人

全校生徒数 262名



【いじめ根絶集会の様子】

取組の概要

「いじめを絶対に許さない」「命や人権を大切にする」態度の育成と主体性を育むことをねらいとして、「命を守る」学習を8月～12月に実施するとともに、生徒会主催による「いじめ防止」のための様々なイベントを実施した。集会では、生徒会企画「いじめ根絶」についての交流を行い、役員一人一人が「笑顔で楽しく過ごせる学校」をテーマに自分の考えを全校生徒に発表した後、全校縦割りの対抗ゲームで交流を深めた。

【生徒の感想】

知らず知らずに嫌な思いをさせているのかもしれないと思った。改めて、自分の気持ちを伝えることや、相手の気持ちを知ることがとても大切だと思った。

成 果

相手意識や互いに認め合うことを大切にしたいという感想が多く出されるなど、生徒が主体的に呼びかけやイベント、交流会を企画・実施することで、生徒が自分事として楽しく過ごせる学校を目指し、いじめは絶対に許さない意識を高めることができた。

帯広市立翔陽中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ撲滅集会」の取組

11月30日(木)6時間目

場所：帯広市立翔陽中学校体育館、各教室

校長名 今 野 典 之

全校生徒数 489名



【いじめ撲滅集会の様子】

取組の概要

生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、「いじめを絶対に許さない態度」の育成をねらいとして、全校いじめ撲滅集会において、全校生徒が、生徒会事務局の進行で「いじり」に関わる動画を視聴した。各教室において、振り返りとして動画を視聴して感じたり、考えたりしたことをワークシートに整理した後、いじめ防止の標語を作成し、校内に掲示した。

【生徒の感想】

軽い気持ちで相手を「いじる」ことも、心を傷つけてしまったり、不安にさせてしまったり「いじめ」につながると気付いた。相手の気持ちを考えることが大切だと思う。

成 果

いじめ防止標語には、「考えて いじめといじり その差とは」のように、「いじり」もまたいじめにつながることがあるという認識の中から考え出された作品も見られ、生徒のいじめ根絶に対する意識を高めることができた。

帯広市立川西中学校

取組の名称 生徒会主体の「交流集会」の取組

12月5日(火) 6時間目

場所：帯広市立川西小学校体育館

校長名 村上達也

全校生徒数 90名



【交流集会活動の様子】

取組の概要

小学生といじめ防止に向けた取組を交流し、活動の充実を図ることや互いの様子を知ることがをねらいとして、生徒会書記局と川西小学校児童会が中心となり、本校全校生徒と川西小学校4～6年生が川西小学校体育館に集まって交流集会を実施した。児童会と生徒会がそれぞれ企画した仲間づくりのためのゲームや児童生徒混合のグループに分かれ、クイズを行うなどして、校種を超えた交流を深めた。

【生徒の感想】

お互いの学校でいじめ防止に向けた継続的な取組をしていることが分かった。最初は少し緊張していたけれど、小学生とゲームを通して仲良くなることができたと思う。

成 果

生徒会と児童会が共同で計画から運営を行い、和やかな雰囲気の中での交流となった。中学生は上級生としての自覚をもちながらの交流となり、思いやりの気持ちや互いに認め合う態度を育み、いじめを絶対に許さない風土を醸成することができた。

帯広市立清川中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月22日(金) 4時間目

場所：帯広市立清川中学校体育館

校長名 小野稔之

全校生徒数 37名



【グループ別発表の様子】

取組の概要

いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、定例の全校集会において「いじめ根絶」について考える時間を設定した。生徒会事務局が全校集会において、いじめの事例を数件紹介し、全校生徒が小グループに分かれて、どのように解決していけばよいかについて事例検討を行い、互いの考えを交流するとともに、最後に生徒会の代表がいじめ根絶に向けて宣言を行った。

【生徒の感想】

いじめの根絶に向けて全校集会などで話し合うことで、全員で同じ意識をもつことができた。普段の生活で起こりうる「ちょっとしたいじめ」をなくしたいと思った。

成 果

実施後のアンケートにおいて、「いじめは絶対にしない」「いじめを見たら声をかけ、先生に相談したい」などの記述があり、生徒が実際の事例について考えることを通して、いじめ根絶に対する意識を高めることができた。

帯広市立八千代中学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月18日(月)5時間目

場所：帯広市立八千代中学校体育館

校長名 嘉藤 貴 充

全校生徒数 15 名



【「いじめ根絶集会」の様子】

取組の概要

児童生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない心と態度、実行する力について育むことをねらいとし、本校生徒会と広野小学校児童会が主体となって、「いじめ根絶集会」を実施した。児童・生徒を3～4人のグループに分け、テーマごとの話し合いを行い、全体発表を行うとともに、レクリエーションを通じて、学年や校種を超え、互いを尊重し合う、よりよい関係づくりのための交流を行った。

【生徒の感想】

自分にそのつもりがなくても、相手の考え方や感じ方、年齢などによって、嫌な思いをさせたり、傷つけてしまったりすることがあるので、「相手」を意識しようと思う。

成 果

集会を通じて「相手がどう感じるか」を意識して、相手を不安な気持ちにさせたり、不快な思いをさせたりしないよう、言葉や口調を考えて話す生徒が増えるなど、相手意識が高まり、いじめを絶対に許さない風土を醸成につながった。

帯広市立大空学園義務教育学校

取組の名称 児童会・生徒会主体の「いじめ防止集会」の取組(meet開催)

12月8日(金)5時間目

場所：帯広市立大空学園義務教育学校各教室(第5学年～第9学年)

校長名 村 松 正 仁

全校児童生徒数 498 名



【話し合い活動の様子】

取組の概要

「いじめを絶対に許さない」態度の育成をねらいとし、「いじめ防止集会」を開催した。「いじめに対する考え」についてのアンケートを実施し、その結果を全体で共有することにより、普段の自分の行動を省みるとともに、「いじめをなくすにはどうすればいいか」というテーマで、各学級で話し合ったことを全校で共有し、一人一人が考えた「いじめ防止標語」を体育館入口に掲示した。

【児童生徒の感想】

常に人の気持ちを考えて、自分の発言・行動に責任をもち、自分がされて嫌なことはしないようにしたいと思った。

成 果

児童生徒が、いじめ根絶のために、教師や友だち、保護者など、周りの助けや協力が必要であることを再確認するとともに、自分の言動を振り返り、いじめのない学校づくりのためにできることを考えることにより、いじめ防止の意識を高めることができた。